Food Salvation City~SEMBA~

食品ロスの対策が街に溶け込み日常的な風景の一部となる。　船場には食べ物の無駄を無くすライフスタイルがある。

社会問題としての　食品ロス　BACKGROUND

「食品ロス」とは？
売れ残り や食べ残し など本来食べられるのに捨てられてしまう 食品

我々は日本国内の食用に出荷された食品の3 分の1 を捨てている。
その中の約6 5 0 万トン が食品ロスとなり、国連世界食糧計画（ WFP）による 食糧援助量（ 約 320 万トン ）の2 倍が廃棄されている。

近年では食品ロスを減らすためのアプリ なども 開発されており、飲食店と 客を結ぶプラットホームにもなっている。

スーパー・コンビニなどから廃棄物として出された食品（島田泰治氏撮影）

消費者の金銭から注文ミス や食べ残し が捨てられてしまう現状

国内消費仕向量
1 年間に国内消費に回された食料の量
8,291 万トン

－

粗食料
1 年間に国内消費される 人間が食用とする 量

－

純食料
実際に食さない頭や骨、内臓を 取り 除いた量

＋

加工用
1 年間に国内消費される 人間以外が食用とする 量

食品廃棄物等
2,842 万トン

食品ロス
本来食べられるのに廃棄されてしまう 量
646 万トン

食品廃棄物等の利用状況

埋め立て・焼却
344 万トン
脱水・ 乾燥による減量
197 万トン
リサイクル率

食品関連事業者

食品製造業
1,650 万トン
規格外品選別、過剰除去
95%
食品廃棄物の量：大
取仮の種類：少

食品卸売業
30 万トン
選別
60%
食品廃棄物の量：中
取仮の種類：多

食品小売業
130 万トン
直接廃棄（ 期限切れ）、発注ミス、 破損
47%
食品廃棄物の量：小
取仮の種類：多

外食産業
200 万トン
直接廃棄（ 期限切れ）、注文ミス、仕込みすぎ、食べ残し
23%
食品廃棄物の量：大
取仮の種類：多
調理人又とか再利用しにくい

事業系食品廃棄物等
製造業、卸売業、小売業で発生する廃棄物
規格外品、返品、売れ残り、食べ残し
357 万トン

再生利用
1,426 万トン
飼料化向け
1,059 万トン
肥料化向け
249 万トン
エネルギー化等向け
117 万トン

熱回収
43 万トン

一般家庭

家庭系食品廃棄物等
一般家庭で廃棄される 量
832 万トン

食べ残し、過剰除去、直接廃棄
289 万トン

埋め立て・焼却
776 万トン

再生利用
肥料化・メタン化等向け
56 万トン

出典：農林水産省・環境省「 平成 27 年度　食品廃棄物等・食品ロスの推計結果」より 作成

日本国内の食品廃棄量について

経済成長と 共に失われた　船場の生活スタイル

かつての船場は京都の町割りを参考に城下町が形成され、町家（職住近接型）で一つ屋根の下で商売を営み、暮らしていた。しかし現在、経済成長するにつれ、チェーン店などの外食産業が発展し、食品ロスが多くなった。

現在の船場の生活スタイルを見直し、もう一度食品ロスに目を向けることで日本国内の先進的な取り組みの町として提案を行う。

職住近接型で食べ残しや売れ残り があれば、家庭内で処理されていた。昔は食品ロスは少なかった

チェーン店が数多く 出店し、持ち帰りの 禁止や衛生上の問題により、食品ロスがかなり 多くなった

小売業・ 外食産業・ 家庭

左の図から 読み取れるように 食品関連業者の中でもっとも多くの食品廃棄物を出しているのは食品製造業だが、廃棄物の 95% の高い割合でリサイクルされている。製造業以外の卸売業、小売業、外食産業は廃棄物の絶対的な量ははるかに少ないがリサイクル率は60%未満となっており 伸び白があると 考えられる。

そこで 60%未満の 3 つの業態に着目する。しかし船場には食品の卸売産業がほとんど見られないため食品小売業と外食産業を対象に提案する。また近年船場地域の居住者が増加していることから家庭からの食品廃棄物に関しても 対象とする。

食品ロス　形態の分類

外食産業
調理ミ スはすべて廃棄

小売業
多めに発注、充填度維持

家庭
余裕があるほど、管理不足

小売業・ 外食産業　家庭の食品ロス は下の図のよう に食べられるか食べられないかの2 つに分類することができる。

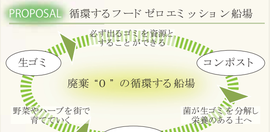
食べられない	食べられる	
・野菜などの切れ端 ・食べ残し	・試作品 ・売れ残り	・賞味期限　・鮮度が落ちた ・販売期限　・使いきれない
↓	↓	
コンポスト	調理	誰かに食べてもらう

コンポスト から 生まれる　Salvation Landscape　PROPOSAL 1

Problem　生ゴミ の対処方法

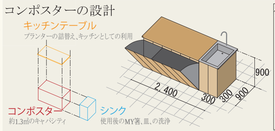
どうしても家庭・ 飲食店で出てしまう 生ゴミ

PROPOSAL　循環するフード ゼロエミッション 船場



Lifestyle　ゴミも 出さない船場プライド

コンポスターの設計



コンポスターの配置

現状: 船場後退線により、歩行者道路と駐車枠が設けられたが、駐車枠のせいで使われていない空間が死んでいる。

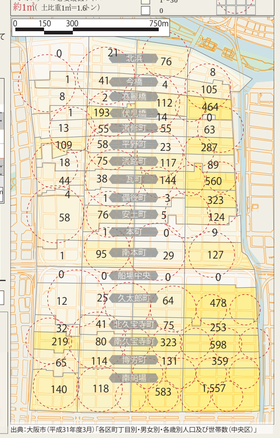
↓

歩行者道路を広げつつ、通りにコンポストする姿が風景化する
salvation carとセットで使えるテーブルと水場を設置

ケーススタディ

世帯数が多い南船場1丁目において
1,557世帯　927kg／1日
最小単位 半径80mの円
4つでカバーすると
1つ232kg／1日389世帯分
1週間でコンポスターの交換を行うと
1つ1,624kg 1週間分のキャパシティ）
コンポスターの必要最低サイズ
約1m(　土比重1m³=1.6t ン)

世帯数分布	
1000～1500	
400～1000	
210～400	
150～210	
120～150	
90～120	
60～90	
30～60	
1～30	
0	



出典：大阪市（平成31年度3月）「各区町丁目別・男女別・各歳別人口及び世帯数（中央区）」

足元を彩る ハンモック型&バッグ型プランター

小さいスケールで直線的な配置が近代建築を強調する。

三休橋筋

頭上を彩る Salvation　Wall

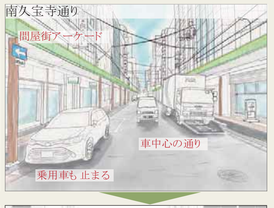
パンチングウォールを利用し 立体的に。ピロティ空間を拡張。

船場センタービル

目線を彩る カーテン 型エアプランター

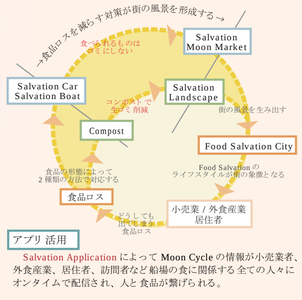
リ ニアなアーケード に流線的な配置と デザインに。

南久宝寺通り



循環する船場の提案　Moon Cycle　MASTER CONCEPT

食品ロスを無くすシステムが船場地域とその周辺のライフスタイルと風景に流れる Moon Cycle によって実現する。食べ物を大切にする 行動がかっこよく 船場の 道を彩り、SEMBA のライフスタイルを 作る。



アプリ 活用

Salvation Application によって Moon Cycle の情報が小売業者、外食産業、居住者、訪問者など船場の食に関係する 全ての人々にオンタイムで配信され、人と 食品が繋げられる。

関係者

廃棄される 食品を新たな価値で街に還元する 仕組み。
モビリ ティ が船場地域内を 走行し、食品ロス を回収しながらリ メイクして Salvation Market を 通して 会社員や地域の 人々に提供する。船場で発生する ゼゴミをコンポスト へと運ぶ風景が日常となり、その堆肥でできる Salvation Landscape がまちを 緑が彩る。

組織構成

船場供業部
↳ Food Salvation 部
↳ ・運転手
・調理師

×

船場供業部
商店街
大阪久宝寺町跡道盟協同組
心斎橋北商店街振興組
せんば心斎橋筋協同組合
船場センタービル連盟
三休橋筋商業協同組合
水辺
船場クリ ーナイフィ・ポー
東横堀川水辺再生協議会
ランドスケープ
環境デザイン E.M.I

歩行者道路整備&外構設備

大阪市 BID 事業
負担金
船場全体の 魅力向上
不動産価値 向上

×

・住民
・オフィス街で働く 会社員
・公的機関
・商店街
・ランドスケープデザイナー
・その他
（ 船場を拠点とする 団体等）

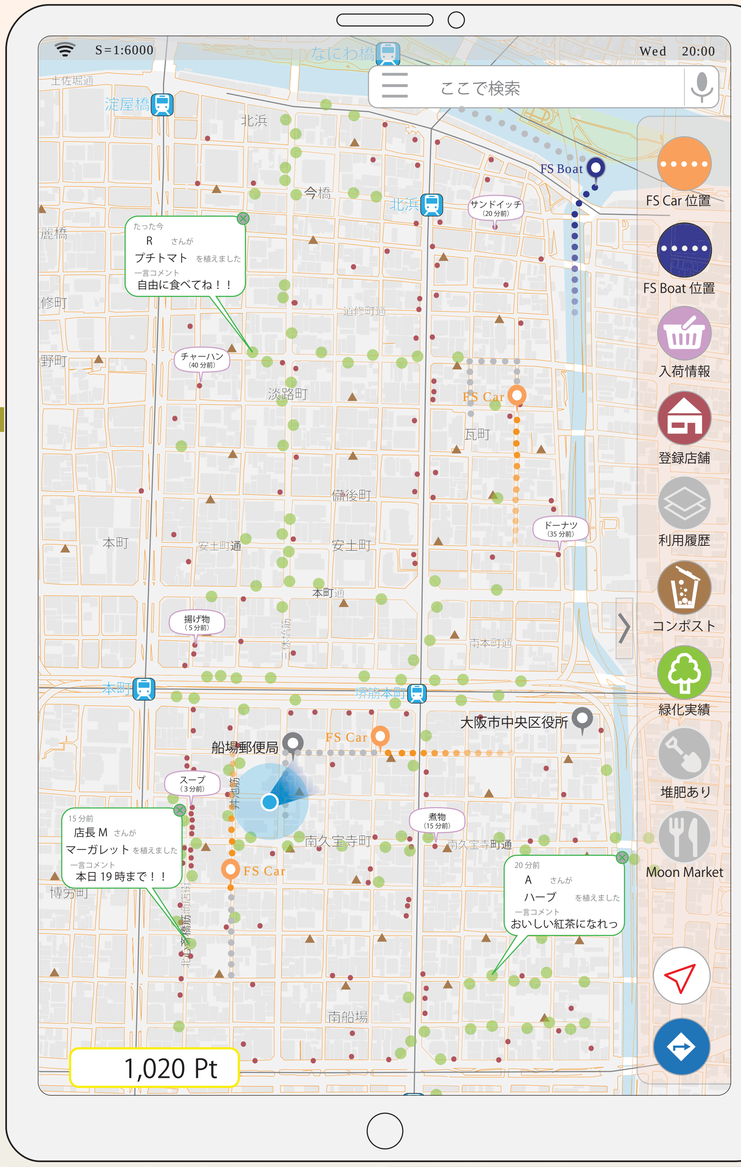
Moon cycle

Salvation Landscape
コンポストを 風景に 生ゴミ が町に 循環
Compost　Distribution

Salvation Market
食品ロスを 再利用する モビリ ティ が町を 巡る
Salvation App　Salvation Boat　Salvation Car

プランター潤沢 環境向上 / 生ゴミの提供 / ゴミを出さない 生活の獲得 / 情報 獲得 / 情報 掲載 / 開発協力

船場住民・ 店舗　企業



コンポストでできた堆肥を用いた緑化を商店街や住民が行う

コンポストの利用が日常の風景になる

余った料理が集まる　Salvation Market　PROPOSAL 2

Problem　食品ロスの対処

人為的なミ スや売れ残り が手を付けられずに捨てられる

Proposal　食品ロスを回収するモビリ ティ

需要のもとへ

Lifestyle　大阪船場のもったいない精神

モビリ ティ が食品ロス専門バー・ レストランとなり、通りや水辺で展開する Salvation Market を開催する

食品ロス発生～再利用までの流れ
～ある家庭の場合～

食品ロス発生 → アプリで出品・投稿 → モビリティを追跡 → 食品を納品 → 安価で売れる → 金銭ではなくポイント付与

ルート 計画

小回り の利く 小型モビリ ティ
南久宝寺通り 、心斎橋筋商店街、三休橋筋に駆け回る

様々な場所に動き、自由に巡る

大量に扱える大型モビリ ティ
多くの世帯に目を向け、長距離でも駆けつける

三休橋・ 平野町・ 瓦町・ 本町・ 南船場の 5 カ所巡る

大阪各地を回る船型モビリ ティ
南久宝寺に船着場を作ることで、Food Salvation を拡大

道頓堀や中之島など 水の回廊を巡る

船で各地へ波及

Food Salvation の取り組みを船の利用で拡大を狙う

収集機能 × 水上レストラン
● 船着場（定期便あり）
○ 船着場（臨時使用）

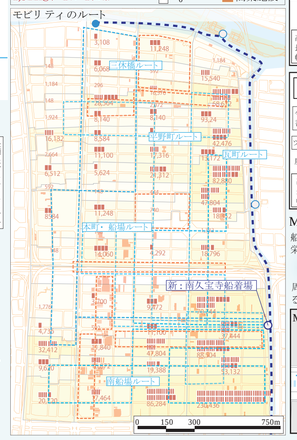
船場における 食品ロスの数

日本の世帯数
5344万8685世帯
船場の世帯数
8,921 世帯
1年間の家庭系食品ロス
289万ン／1年・1世帯
1日の家庭で発生する食品ロス
148g ／1日・1世帯
1日の船場で発生する家庭系食品ロス
1,322kg ／1日・1世帯

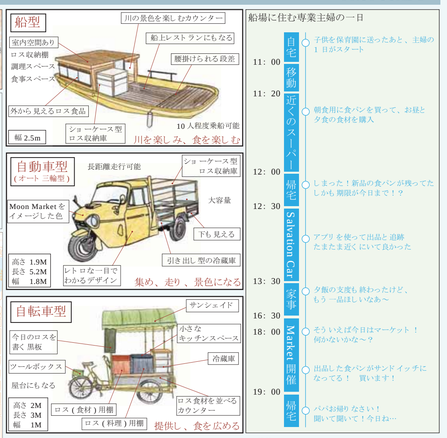
世帯数分布	各町丁別
1000～1500	
400～1000	
210～400	
150～210	
120～150	
90～120	
60～90	
30～60	
1～30	
0	

食品ロス量 g)
30,000
3,000
商業施設

モビリ ティのルート



船場に住む専業主婦の一日



Moon Market

船場の両側街の特徴を持ちつつ、繊維業の問屋街として栄えた南久宝寺通り。

食品ロスをさばく 新しい卸売の街

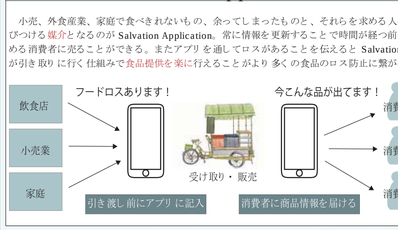
周辺に商店街や飲食店が多く 効率よく 集めることができる南久宝寺通り を拠点として活動する。

現状
貨物車が多く 集まる風景の中に、路上駐車する 乗用車などにより 運搬速度・機能が低下している。

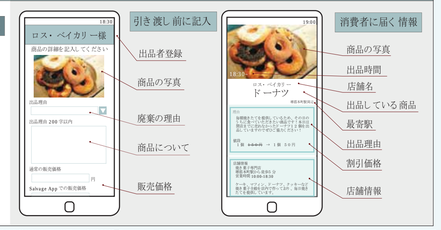
提案
食品ロスが集まるストリート に生まれ変わらせ、Landscape と Market が組み合わさることで、通りのすべてが Food Salvation で構成される 景観を作る。

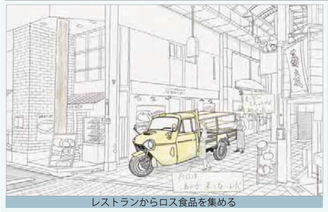
人と 人をつなぐ　Salvation Application　CONNECTION

小売、外食産業、家庭で食べきれないもの、余ってしまったものと、それらを求める人を結びつける媒介となるのが Salvation Application。常に情報を更新することで時間が経つ前に求める消費者に売ることができる。またアプリを通してロスがあることを伝えると Salvation Car が引き取り に行く 仕組みで食品提供を楽に行えることにより 多くの食品のロス防止に繋がる。



アプリ で得られる情報
・出品情報
・Salvation 登録店
・Salvation Car/Boat の ルート / 現在地情報
・これまでの利用履歴
・Salvation Market 情報
・コンポスト の設置位置
・緑化の実績
・利用可能な堆肥がある コンポスト の位置情報
・Moon Market の情報

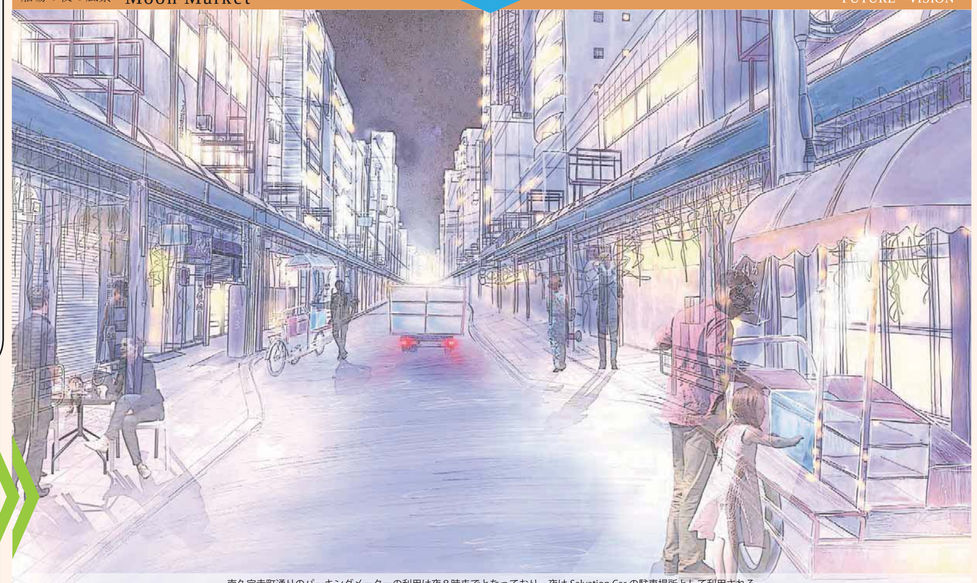



レストランからロス食品を集める

街中で食材を求める人に販売する

道路だけでなく水上でもロス食品が活用される

船場の夜の風景　Moon Market　FUTURE　VISION



南久宝寺町通りのパーキングメーターの利用は夜 8 時までとなっており、夜は Salvation Car の駐車場所として利用される。
週に 2 回、全ての Salvation Car でカフェやバーを Moon Market として開き、昼間だけでなく夜も賑わう南久宝寺町通りの新たな風景となる。